

【議事録】

1 開会

2 会長挨拶

3 委員変更について

4 議事

(1) 沼津市自転車活用推進計画における令和7年度の実施状況について

【鈴木会長】 令和7年度の実施状況について、目標1～目標4まで一括して説明をお願いします。

【事務局】 以下のとおり説明

目標1 建設デザイン政策課・生活安心課

目標2 まちづくり政策課

目標3・4 ウィズスポーツ課

【鈴木会長】 8ページ目にある「自転車まちなかロードマップ」は高校生を対象に配布しているものなのか。広く市民に有用なものであると思うが。

【生活安心課】 今のところは自転車の利用の絶対数が多い高校生への配布。事故件数も高校生が多く、マナーも悪いという声が聞こえたのでまずは高校生へ情報提供した。それから市のホームページにも掲載しているので、大人の方も含めて見ることはできる。矢羽根のある所を走ってほしい、ということも周知したい。

【鈴木会長】 沼津市に住んでいる方もどこに矢羽根が引かれているか知らない人も多いと思う。作るだけではなく、こういったものを活用して周知すると、目標1の成果にも繋がる。こういったものを出している自治体はあまりなく、作っていても公表していないケースも多いので、ぜひ広めていただきたい。

(2) 沼津市自転車活用推進計画における実施の中間年目標達成状況評価について

【目標1】 自転車利用環境の充実による安全性確保

【鈴木会長】 目標1について事務局から説明をお願いします。

【建設デザイン政策課】 目標1について説明。

【生活安心課】

【鈴木会長】 事故の件数について何か特徴はあるのか。先ほど高校生の事故件数が多いという話はあったが、わかる範囲で。

【生活安心課】 事故の発生件数の実績として出合頭の事故が多くなっている。一時停止ができていないなど基本的なルールが守れていないということを再認識し、ルール

の周知をしていくことが大事だと思っている。

【鈴木会長】

交通安全教室の実施回数がかなり多いが、これは市で実施しているものの回数なのか、関係団体とタイアップして実施したものも含まれた回数なのか。

【生活安心課】

交通安全協会の実施する回数が多い。交通指導員は交通ルールを学んで教えるという立場になるので、より知識も深く適切な指導ができるので、そういった方にやっていただいているものが主である。市が主催するものとしても、交通指導員を講師として呼ぶ。直近ではスタントマンを呼んで事故を再現するような教室も開催している。なので、市が全て主催している訳ではなく、外部が開催するものも含めてということになっている。

【鈴木会長】

そのように色々な団体で回数を増やしていく方がいい。ある一つの団体が負担していくより、みんなが知っている方が事故をなくしていくうえでは重要で周知もしやすい。引き続き色々な団体と協力してほしい。

【目標２】移動の利便性向上による過度な自動車への依存の低減

【鈴木会長】

目標２について事務局から説明をお願いする。

【まちづくり政策課】

目標２について説明。

【鈴木会長】

令和７年度時点の目標達成は「×」となっている。補足だが自転車の利用分担率25.6%というのはかなり多い。日本で一番分担率が多いのが大阪で、それと同じぐらい。日本トップの分担率を目指しているというイメージ。目標を達成できないのが悪いのではなく、それだけ高い目標を立てていると思ってほしい。

乗換ポイントというのはどのような定義であるか。インフラとして設けるのかサインをつけてわかりやすくするものなのか。

【まちづくり政策課】

このサイクルステーションを使うとこのバス停が使いやすいよ、とかそういった情報提供をしていきたい。

【鈴木会長】

そういった情報があるだけでも違うと思う。空間を作るだけでなくちょっとした工夫でのこともカウントしてもらえればと思う。

他の自治体での例が少ないもので目標自体もチャレンジングなものである。主要エリアまでの移動を自転車で賄い、路線バスにアクセスするということもできるのかと思う。徒歩では行けないが自転車なら行けるということもできない。体力があるなら自転車で目的地まで行けばいいという意見もあるかもしれないが、体力のない方もたくさんいるので、途中までは自転車で行き途中からはバスで移動ということもできると思う。

これまでこのような移動をしてきたことのない人たちがやってみようとはならないので、こういうことができるよと誘導していかないといけない。ニーズを待っていてもあがってこないというのは難しさとしてある。

乗換ポイントがあることでバスが利用しやすくなるというエリアを選んで

いくのも大切。例えば今回自動車の利用率が上がっているが、そういうエリアに仕掛けていけたらいい。場所を決めて試験的にやる、というのも待っているよりはいいのかなと思う。

自転車と公共交通の掛け合わせでうまくいっているところもある。そこは車を運転できない子供（親の送迎があることが前提）の場合、親の都合で移動範囲が限定されるが、自転車と公共交通を使えば移動できる、という例。同じように送迎が多いエリアでやってみてその負担を減らすということをやってみてもいいかもしれない。ターゲットを決めてその負担を減らす、ということ 키워ードに乗換ポイントを探していてもいいのかもしれない。

【目標3】自転車の活用による健康の増進

【鈴木会長】 目標3について事務局から説明をお願いします。

【ウィズスポーツ課】 目標3について説明。

【椿委員】 自転車関連イベントの延べ実施回数について、この回数に対して想定人数に対する参加率は。10人、20人を募集して20人を超えるような応募があって抽選で参加されたのか、それとも5名しか集まらなかったのか。

もう一点、令和12年にイベント開催数を65回と設定しているが、そうすると年間に毎週末、何かイベントがあるという非常に多い数になっているが。

【ウィズスポーツ課】 イベント実施回数年65回というところだが、こちらは年間に65回を実施するのではなく、延べ実施回数ということで年5回を引き続き繰り返し行って、トータルで令和元年度から65回開催するという指標となっている。

続いて参加人数だが、こちらについては、各種イベントを開催しているが、やはり人気なイベント、人気のないイベントがある。定員割れしてしまうイベントもあるが、比較的参加していただいている方ではないかと考えている。

【椿委員】 年5回を継続していくという。

【ウィズスポーツ課】 その通り。

【鈴木会長】 特に人気があったとか、特徴は分析されているか。

【ウィズスポーツ課】 やはりイベントの中でも期間型で周遊していますサイクルボールカノイチ。こちらはロードバイクに真剣に取り組んでいる方々が走っているハードコースもあり、比較的前回から参加していただける状況である。

例えば自転車教室とかになると、市民対象向けのイベントになるが、中々集まってこない状況である。

【鈴木会長】 かなり内容の毛色が違うので、確かに参加率で違って見える。ある意味安全とかと組み合わせて。

【ウィズスポーツ課】 体験型の、アーバンスポーツであるとか、BMXなどを体験していたくようなイベントも開催している。どちらも魅力、楽しさを発見してもらうようなイベントを本年度はやっている。

【鈴木会長】 民間でそういうことをされたいという事業者さんはいるか。

【ウィズスポーツ課】 この指標の結果には入っていないが、本協議会委員もされているカケルバイクの小野さんは民間で様々なガイドサイクルなどをやっていた。また、沼津市だけではなく、広域的な部分でエロイカというミニペロ自転車を使ったイベントも開催されており、市だけではなく民間の方のイベントも実施している状況である。

【鈴木会長】 そういうのもぜひ共有していただけるといいかなと思う。もしカケルバイクさん、何かあれば。

【小野委員】 沼津信用金庫さんと組んで3ヶ月に1回必ずサイクリングイベントをやっていたりとか、沼津市から管理委託を受けているサイクルステーション静浦東で月に3回くらい必ず何人かが集まって走るイベントをやったりしている。

ただ、コロナ禍の時の方が実は走る人が多かった。コロナ禍で室内ではなく外で楽しめるということで、自転車需要がすごく上がった時期があり、今はそこからちょっと落ち着いている。コロナ禍で始めて合わない方から辞めていき、ちょうど人数が落ち着いているような状態がここ2,3年なのかなという感じである。

なので、まだ続けている方々が辞めていかない、あとは逆に新規でやりたいよ、という方が入ってきた時に広く間口を開けられるような活動をなるべくするようにしている。毎週カウントしているものではなく、数字としては出しにくい。

どうしても最初に目標値を高く設定すると思うが、減らさないことの方が大事だと思っていて、例えば何年か前に東京オリンピックがあったが、その前は「このエリアに自転車競技が来ますよ、行われますよ」ということで、どの自治体も盛り上がっていた。それで自転車関連の施設が何軒かできて、大分やめていった。やめてしまうと、やはり盛り下がる。近くでいうと、伊豆の国市の一番大きかった施設がつい最近なくなった。そうすると、この地域はちょっと自転車の機運が落ちてきたなって思われてしまうのが一番良くないことなのかな、来にくくなるのかな、と思い、続けることの方が大事かなと思っている。

【鈴木会長】 そう考えると、目標設定はこれでいいんじゃないかなと。ありが

とうございます。ぜひトレンドなども見ながら続けていただければ
なと思った。

【目標4】サイクルツーリズムの推進による交流人口の拡大

【鈴木会長】 目標4について事務局から説明をお願いします。

【ウィズスポーツ課】 目標4について説明。

【鈴木会長】 パートナー事業者数だが、手を挙げてもらう形式だと、知らない人はずっと知らないままで頭打ちになるのかなと思う。その上のサイクリングコースが増えているということは、自転車が通って欲しい場所は増えているということ。なので、そのエリアでコースを設定しているのでぜひご協力ください、みたいな感じでパートナー事業者を募る。そのエリアに募る。そういった働きかけをすると、感心を持っていただけるかもしれない。

【ウィズスポーツ課】 やはりこのコースになっているエリアへ声をかけていくっていうのは必要であるとは思っている。

【鈴木会長】 先ほどカケルバイクさんも話していたが、多分コロナ禍の頃にかじった人たちが、このサイクリング関連ホームページ閲覧者数にもいたのかなと。いいご意見をいただいた。関心を持ってホームページを見ていた方が今はやめている可能性もある、他にも何かツールができているのかもしれない。そういった可能性もあるのかなと思う。

【小野委員】 家にいる時間とかが減ったりとか自転車から興味がなくなったりして、そもそもホームページ自体をあまり見ない、見なくなったというのはあると思う。自転車に乗る方は動画を見る方が多くて、例えば写真で伝わらない情報が自転車ってすごく多い。僕も今他のところに行くのに、いろんな資料を見るが、写真で「ここ、いい観光地ですよ」とあっても、交通量が伝わってこない。せっかく綺麗なところに行くのに、交通量が多かったら嫌だな、と。交通量が伝わってこない。じゃあ、どうしようと動画をYouTubeとかで見て、車がそんな通っていないなと思うと、じゃあ行こうかなとなる。

動画ももちろんやられていると思う。お金はとてめにかかるが、動画に振るのもいいのかなと。カケルバイクでも一応やっているの。視聴率はそれなりに好調で、それなりの回数見てもらっている。海岸線なんかを走る映像もあるが、走っている気分になりましたという話もあった。

【鈴木会長】 確かにホームページで調べるというより、最近は口コミが多いとか、他の方が「いい」と言っていた情報を受け入れる方も多いよう

である。もしかしてそういったところも影響しているのかもしれない。

サイクリングにこだわるだけではなく、例えば観光部門に要請し、ライト層の方に自転車に乗ってもらうツールとして、交通手段として乗ってもらうという意味合いで、もう少し観光よりからアクセスできるような、そういった入り口の工夫も必要かもしれない。

観光したい方で、サイクリングのホームページを見る方はいないと思う。観光のホームページを見ている中で自転車もありますよ、なら、自転車の情報も仕入れようとする気がするので、そういったところも含めて裾野を広げてみると、もう少しホームページ閲覧数が増えるのかもしれない。

目標１～目標４までご説明いただいたが、最初にご説明いただいたように、今回のご意見を踏まえて新たな目標値を修正し、追跡していくということになります。何か今、目標１から目標４を全てご説明いただいた中で、ちょっとこの目標値はどうかとか、そういったものがもしあれば伺いたい。

<特に意見なし>

それでは、概ねこの通りでということでご意見をいただいたと思います。これを事務局で反映して令和８年度以降の指標を設定して取組むということを次回の協議会で改めてご報告いただきます。

５ その他

６ 閉会